



## 平成27年6月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月13日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ボルテージ  
コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部管轄  
定時株主総会開催予定日 平成27年9月29日  
有価証券報告書提出予定日 平成27年9月30日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有

(氏名) 横田 晃洋  
(氏名) 松永 浩  
配当支払開始予定日

TEL 03-5475-8193  
平成27年9月30日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年6月期の連結業績(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期	10,599	5.1	467	△24.2	485	△24.9	232	△20.3
26年6月期	10,082	10.9	616	108.7	646	88.1	291	107.0

(注) 包括利益 27年6月期 278百万円 (△3.6%) 26年6月期 289百万円 (79.2%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
27年6月期	45.31	44.76	6.3	9.7	4.4
26年6月期	57.37	56.51	8.5	13.8	6.1

(参考) 持分法投資損益 27年6月期 ー百万円 26年6月期 ー百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年6月期	4,999	3,789	75.4	731.67
26年6月期	5,031	3,586	70.8	701.00

(参考) 自己資本 27年6月期 3,771百万円 26年6月期 3,562百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
27年6月期	424	△763	△90	1,820
26年6月期	894	△414	△74	2,201

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
26年6月期	—	0.00	—	19.00	19.00	97	33.1	2.8
27年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00	77	33.1	2.1
28年6月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

平成28年6月期の配当予想は未定としております。

### 3. 平成28年6月期の連結業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,600	7.2	200	774.9	200	270.5	50	—	9.70
通期	11,500	8.5	800	71.2	800	64.8	400	72.0	77.59

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

27年6月期	5,155,067 株	26年6月期	5,115,967 株
27年6月期	228 株	26年6月期	228 株
27年6月期	5,132,622 株	26年6月期	5,084,011 株

(参考) 個別業績の概要

平成27年6月期の個別業績(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期	10,573	5.3	683	△24.0	698	△24.7	275	196.8
26年6月期	10,043	10.4	898	75.8	928	66.1	92	△73.9

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期	53.69	53.04
26年6月期	18.26	17.99

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
27年6月期	4,986	75.6	3,789	75.6	3,771	75.6	731.71	
26年6月期	5,021	70.9	3,586	70.9	3,562	70.9	701.00	

(参考) 自己資本 27年6月期 3,771百万円 26年6月期 3,562百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)2ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析 (1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	5
(4) 事業等のリスク .....	5
2. 企業集団の状況 .....	9
3. 経営方針 .....	9
(1) 会社の経営の基本方針 .....	9
(2) 目標とする経営指標 .....	9
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	9
(4) 会社の対処すべき課題 .....	10
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	11
5. 連結財務諸表 .....	12
(1) 連結貸借対照表 .....	12
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	14
連結損益計算書 .....	14
連結包括利益計算書 .....	15
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	16
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	18
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	19
(継続企業の前提に関する注記) .....	19
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) .....	19
(セグメント情報等) .....	20
(1株当たり情報) .....	20
(重要な後発事象) .....	20

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

## (1) 経営成績に関する分析

## ①当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、各種財政・金融政策を背景に、企業収益は総じて改善傾向にあり、緩やかな回復基調が続いております。また、個人消費は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、持ち直しの兆しがみられました。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、スマートフォン契約比率(注1)は、平成26年12月に構成比52.3%となっております(注2)。モバイルゲーム市場については、平成26年における国内ゲームアプリ市場規模は、前年比18%増の7,154億円(注3)となりました。成長率の鈍化はみられるものの、OS系PF(注4)向けのアプリを中心に今後も拡大していく見通しとなっています。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求しつつけるとともに、日本語版恋愛ドラマアプリのノウハウを英語版恋愛ドラマアプリ・サスペンスアプリへ展開し、ドラマアプリ市場を拡大していくことで、さらなる収益拡大に努めてまいりました。

売上は、日本語版恋愛ドラマアプリのF2P(注5)は、前期比でソーシャル専門PF(注6)向けが大幅に減少しましたが、逆にOS系PF向けが大幅に増加しました。P2P(注7)は、前期比でキャリア公式PF(注8)向けが大幅に減少しましたが、OS系PF向けが増加しました。全体としては、前期比で若干減少し、8,900,134千円となりました。

英語版恋愛ドラマアプリは、L10N(注9)が順調に推移し、前期比で大幅に増加しました。US REAL(注10)は新規タイトルのリリース遅延等により減少しました。全体としては、前期比で大幅に増加し、1,493,350千円となりました。

サスペンスアプリは、前期比で増加しましたが、期初の計画を大幅に下回り、206,087千円となりました。

費用は、OS系PF向け売上の増加による販売手数料の増加、増員による人件費の増加、OS系タイトルの増加等に伴う制作外注費の増加、オフィス増床による賃料の増加等がありました。一方、広告宣伝費については、費用投下の回収基準を厳格化したうえで、CMによる回収機能の強化等に取り組むことで、効率的に使用し、前期比で減少しました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は10,599,572千円(前期比5.1%増)、営業利益は467,355千円(前期比24.2%減)、経常利益は485,439千円(前期比24.9%減)、当期純利益は232,546千円(前期比20.3%減)となりました。

主な取り組みは、以下の通りであります。

## (日本語版恋愛ドラマアプリ)

F2Pは、新規タイトル「天下統一恋の乱 Love Ballad」「鏡の中のプリンセス Love Palace」が好調に立ち上がりました。また、既存タイトル「ルームシェア素顔のカレ Love Days」等も好調に推移しました。集客は、平成27年1月に「ルームシェア素顔のカレ Love Days」、4月に「天下統一恋の乱 Love Ballad」のテレビCMを出稿し、計画を上回る効果が得られました。

P2Pは、新規タイトル「偽りの君とスキャンダル」「大人の初恋、はじめます」が順調に立ち上がりました。また、既存タイトル「上司と秘密の2LDK」「特別捜査★密着24時」等も好調に推移しました。集客は、平成26年8月及び平成27年1月に「上司と秘密の2LDK」のテレビCMを出稿し、計画を上回る効果が得られました。

## (英語版恋愛ドラマアプリ)

L10Nは、新規タイトル「Sleepless Cinderella: PARTY(注11)」「Star-Crossed Myth(注12)」「Sakura Amidst Chaos(注13)」が好調に立ち上がりました。また、既存タイトル「My Forged Wedding: PARTY(注14)」「Kissed by the Baddest Bidder(注15)」等も好調に推移しました。集客は、モバイル広告等の出稿拡大に伴い、広告効果の低下がみられましたが、回収基準を厳格化したことにより効果が改善し、回収効率が大幅に向上しました。

US REALは、新規タイトル「Queen's Gambit」を投入しました。また、F2P新規タイトルの制作に取り組みました。

DRAGON (注16) は、シリーズ初のタイトル「Labyrinths of Astoria」の制作に取り組みました。

(サスペンスアプリ)

新規タイトル「ゴシップライター ～消えたアイドルを救え!～」は、課金率等が想定を大幅に下回りました。また、既存タイトル「新・生存率0%! 地下鉄からの脱出」は、平成26年8月に出稿したテレビCMで新規ユーザーを大量に獲得しましたが、長期継続率等が想定を大幅に下回りました。これらにより、売上は、期初の計画を大幅に下回る結果となりました。投入した2アプリの結果に対する要因分析を踏まえ、コンセプトを見直した収集・育成要素を含む新規タイトルの制作に取り組みました。

## ②次期以降の見通し

当社グループは、引き続き、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求しつづけるとともに、平成28年度6月期は、以下の取り組みを行ってまいります。

### 1. 日本語版恋愛ドラマアプリ

新規ユーザーの獲得のため、名作IPタイトル (注17) の投入やLINE GAMEをはじめとした未開拓のプラットフォームへのタイトル投入を行う。また、既存ユーザーのARPPU向上のため、VIPアイテムやキャラ推し新シリーズの投入を行う。

### 2. 英語版恋愛ドラマアプリ

初のUS REAL F2P新規タイトル、DRAGON新規タイトルを投入し、注力していく路線の絞り込みを行う。

### 3. サスペンスアプリ

3アプリ目に採用した収集・育成要素によって、KPIの向上を図る。

- (注) 1. スマートフォン契約比率：スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合  
2. 出所：株式会社MM総研「2014年国内携帯電話端末出荷概況」 2015年2月3日発表  
3. 出所：「ファミ通ゲーム白書2015」  
4. OS系PF：App Store、Google Play等のアプリマーケット  
5. F2P：Free-to-Playの略称。基本プレイ無料・アイテム課金制のコンテンツ  
6. ソーシャル専業PF：GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF  
7. P2P：Pay-to-Playの略称。ストーリー単位の個別課金制のコンテンツ  
8. キャリア公式PF：NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト  
9. L10N：北米市場向けアニメ絵であり、日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳したコンテンツ。Localizationを意味する省略表記  
10. US REAL：北米市場向けリアル絵のコンテンツ(旧：USオリジナル)  
11. 邦題：「眠らぬ街のシンデレラ」 12. 邦題：「恋してしまった星の王子」  
13. 邦題：「天下統一恋の乱」 14. 邦題：「誓いのキスは突然に」  
15. 邦題：「スイートルームで悪戯なキス」  
16. DRAGON：北米市場向けアニメ絵であり、北米市場向けに作ったコンテンツ。北米向けにアレンジされたドラゴンロール寿司に由来。対ユーザー呼称AmeMix(アメミックス)  
17. 他社の知的財産を用いたタイトル

以上により、平成28年6月期の連結業績予想は、売上高11,500百万円(前期比8.5%増)、営業利益800百万円(同71.2%増)、経常利益800百万円(同64.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益400百万円(同72.0%増)を見込んでおります。

## (2) 財政状態に関する分析

## ①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、4,999,285千円（前連結会計年度末比32,635千円減）となりました。

流動資産は、3,687,796千円（前連結会計年度末比435,524千円減）となりました。その主な要因は、現金及び預金が380,620千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、1,311,488千円（前連結会計年度末比402,889千円増）となりました。その主な要因は、無形固定資産が191,295千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の負債は、1,209,549千円（前連結会計年度末比236,245千円減）となりました。

流動負債は、1,209,549千円（前連結会計年度末比236,245千円減）となりました。その主な要因は、未払法人税等が198,942千円減少したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の純資産は、3,789,735千円（前連結会計年度末比203,609千円増）となりました。その主な要因は、為替換算調整勘定が42,828千円増加、利益剰余金が135,347千円増加したこと等によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して380,620千円減少し、1,820,557千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払495,905千円等による資金の支出があったものの、税金等調整前当期純利益485,162千円、ソフトウェア償却費204,479千円、減価償却費及びその他の償却費166,440千円等があったことにより、424,526千円の資金を得る結果（前年同期は894,480千円の資金を得る結果）となりました。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、コンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出409,131千円、PCやサーバー等の有形固定資産の取得による支出256,247千円及び敷金の差入による支出56,195千円等により、763,514千円の資金を支出する結果（前年同期は414,077千円の資金を支出する結果）となりました。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、株式の発行による収入6,468千円があったものの、配当金の支払96,601千円があったことにより、90,132千円の資金を支出する結果（前年同期は74,505千円の資金を支出する結果）となりました。

## （キャッシュ・フロー関連指標の推移）

	平成25年6月期	平成26年6月期	平成27年6月期
自己資本比率（%）	77.0	70.8	75.4
時価ベースの自己資本比率（%）	91.8	140.8	264.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

（注）1. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

2. キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを利用しております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社配当の基本方針は、将来の事業展開と経営体質強化のための内部留保の確保と、株主への利益還元バランスを図っていくこととしております。

具体的には、安定的な配当の維持を基本としつつ、配当性向等を考慮し、配当額を決定していく所存です。

以上の基本方針に基づき、当期の期末配当につきましては、普通配当を1株当たり15円で予定しております。

また、次期の期末配当につきましては、現時点では未定であります。上記の方針に従い、株主に対する適切な利益還元を検討する予定であります。

(4) 事業等のリスク

以下において、当社グループの事業展開その他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも、そのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資家の判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。

なお、文中の将来に関する事項は、本決算短信の発表日現在において当社グループが判断したものであります。

① 事業内容に関するリスクについて

a. 事業環境に関するリスクについて

イ. モバイルコンテンツ市場の市場動向について

当社グループは、モバイルコンテンツ市場において「日本語版恋愛ドラマアプリ」「英語版恋愛ドラマアプリ」「サスペンスアプリ」を展開しております。モバイルコンテンツ市場の歴史はまだ浅く、かつ変化が激しいため、モバイルコンテンツビジネスの将来性は不透明な部分があります。

当社グループでは、モバイルコンテンツ市場は今後も成長すると見込んでおりますが、市場の成長が当社グループの予測を下回った場合には、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

ロ. 技術革新について

当社グループが事業を展開するモバイルコンテンツ業界においては、事業に関連する技術革新のスピードやユーザーニーズの変化が速く、それに基づく新サービスの導入が相次いで行われております。

当社グループは、これらの変化に対応するため、技術革新にも迅速に対応する体制づくりに努めておりますが、変化に対する適切な対応に支障が生じた場合には、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

ハ. 競合について

当社グループが事業を展開するモバイルコンテンツ業界には、競合他社が多数存在しております。当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求することで、ユーザーのニーズに合った魅力あるコンテンツを開発・提供するとともに、効率的な集客に努めております。

しかしながら、今後、当社グループが魅力あるコンテンツを開発・提供できず、競合会社が提供するコンテンツとの差別化が図られない場合には、ユーザー数の減少を招き、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

b. 事業運営に関するリスクについて

イ. 主要な事業活動の前提となる契約について

当社グループが提供するコンテンツは、当社グループがプラットフォーム運営会社（OS系プラットフォーム、SNSプラットフォーム、キャリア）を介してユーザーにコンテンツ等を提供するため、各プラットフォーム運営会社とのコンテンツ提供に関する契約に基づいております。

当社グループ売上高に占めるプラットフォーム運営会社の構成比は、以下の通りとなっております。

相手先	第14期 (自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日)		第15期 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)		第16期 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
Apple Inc.	705,104	7.8	2,163,737	21.5	3,351,295	31.6
グーグル・ペイメント株式会社	338,119	3.7	1,330,562	13.2	2,448,708	23.1
グリー株式会社	3,194,268	35.1	2,926,377	29.0	2,212,173	20.9
株式会社NTTドコモ	2,284,043	25.1	1,758,096	17.4	1,412,374	13.3

プラットフォーム運営会社の事業方針の変更や手数料率の変動等があった場合、また、当社グループのコンテンツがプラットフォーム運営会社側の要件を十分に満たさない等の理由により、当社グループのコンテンツが不相当であると当該事業者側が判断し、新しいコンテンツの提供に関する契約を締結または継続できない場合、プラットフォーム運営会社において不測の事態が発生した場合等には、当社グループの業績及び事業展開に重大な影響を与える可能性があります。

#### ロ. コンテンツにおける表現の健全性確保について

当社グループの提供するコンテンツの一部には、性的表現及び暴力的表現が含まれるものがあるため、当社グループではコンテンツの制作・配信等において、当社グループ独自の基準を設定しております。この基準は、表現の健全性を確保するよう、青少年等の感情を著しく刺激する表現はしてはならないこと等を基本方針とし、法令等で定められているよりも厳格な水準に設定しております。また、当該基準を遵守するため、採用者には入社時に研修を行う等の体制を構築しております。

しかしながら、法的規制や法解釈は、社会情勢等により、変化する可能性があるため、法的規制の強化や新たな法令の制定等により、将来において当社グループが提供するコンテンツが法的規制に抵触することとなった場合等には、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

#### ハ. システムリスクについて

当社グループは、アクセス過多によるサーバー停止やネットワーク機器の故障及び自然災害や事故、火災等によるシステムトラブルの発生を回避するために、サーバーの負荷分散、稼働状況の監視、定期的バックアップの実施等の手段を講じることで、システムトラブルの防止及び回避に努めております。

しかしながら、コンテンツを管理しているサーバーや配信システムにおいて何らかのトラブルが発生することで、コンテンツの配信に障害が生じる可能性もあり、当該障害が生じた場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### ニ. 特定コンテンツへの依存について

平成27年6月期の当社グループのモバイルコンテンツ事業に占める「日本語版恋愛ドラマアプリ」の売上高の割合は84%となっております。当社グループは、「日本語版恋愛ドラマアプリ」を事業全体の核としつつ、「英語版恋愛ドラマアプリ」「サスペンスアプリ」の売上拡大に努めておりますが、現時点では、依然として「日本語版恋愛ドラマアプリ」の売上高の割合が高くなっております。

したがって、今後、ユーザーの嗜好性の変化等により、「日本語版恋愛ドラマアプリ」市場が縮小した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

ホ. コンテンツ制作におけるクリエイターへの依存について

当社グループは、当社グループが立案した企画に基づいたイラストやシナリオの制作等に關し、業務の一部を外部クリエイターに委託し、コンテンツ提供をしております。

当社グループでは、特定の外部クリエイターへの依存度を低下させるため、複数のクリエイターに分散して委託するとともに、委託するクリエイターを開拓し、クリエイターとの良好な関係の継続に努めることにより、リスクの軽減を図っております。

しかしながら、当社グループの想定どおりにクリエイターを開拓できない場合、契約内容の見直しや解除がなされた場合、制作委託費用が上昇した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

ヘ. 広告戦略について

現在、当社グループは広告出稿形態による効果等を常に検証し、最適な広告出稿形態を選択し、ユーザー獲得に努めております。しかしながら、当社グループの想定通りにユーザー数を獲得できない場合、また広告媒体の出稿枠獲得競争の激化等により、ユーザー獲得コストが上昇した場合等には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

② 自然災害、事故等のリスクについて

当社グループの開発拠点は、本社所在地である東京都、愛知県及び米国サンフランシスコにあり、当該地区において大地震、台風等の自然災害及び事故、火災等により、開発業務の停止、設備の損壊や電力供給の制限等の不測の事態が発生した場合には、当社グループの事業活動に支障をきたす可能性があり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

③ 会社組織に関するリスクについて

a. 人材の確保及び育成について

事業拡大を進めていくためには、スキルとセンスを持つ人材を幅広く確保することと、人材の育成が重要な課題であると考えております。このため、採用活動の充実、研修体制の充実等に努めておりますが、業務上必要とされる人材を確保・育成できない場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

b. 個人情報の管理について

当社グループはユーザーの個人情報を取得していますが、一般財団法人日本情報経済社会推進協会の発行するプライバシーマーク(注)を取得する等、個人情報の管理には十分留意しております。しかしながら、今後、顧客情報の流出等の問題が発生した場合には、当社グループへの損害賠償請求や信用低下等により、当社グループの業績及び事業展開に影響を与える可能性があります。

(注) プライバシーマーク：一般財団法人日本情報経済社会推進協会が個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備していると認定した事業者等に発行するものです。

c. 知的財産の管理について

当社グループでは、知的財産の管理において、知的財産の取扱いに関する留意事項を文書化した社内基準を制定するとともに、採用者に対し入社時に当該基準の遵守について教育する等、内部管理体制を構築しております。また、コンテンツ制作の一部を委託している外部クリエイターとの契約において、知的財産については第三者の知的財産権を侵害しないこと、当社グループに対して著作権を譲渡すること等、細かく取り決めを行っております。

しかしながら、当社グループの認識の範囲外で第三者の知的財産権を侵害した場合、当該第三者から損害賠償請求等が起こる可能性があります、その場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

d. 内部管理体制について

当社グループは、内部関係者の不正行為等が発生しないよう、国内外の法令・ルールへの遵守及び企業倫理に沿った法令遵守規程を制定するとともに、内部監査等で遵守状況の確認を行っております。しかしながら、法令等に抵触する事態や内部関係者による不正行為が発生する可能性は皆無ではないため、これらの事態が生じた場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

④ 海外展開について

当社グループは、中期的な経営戦略の一つである収益源の多様化において、英語市場での事業拡大を掲げており、海外子会社に経営資源を投入しております。しかしながら、海外展開においては、その国の法令、制度、政治・経済・社会情勢、文化・宗教・ユーザー嗜好・商慣習の違い、為替等の様々な潜在的リスクが存在しています。それらのリスクに対処できないこと等により事業推進が困難となった場合には、投資回収が困難となり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

⑤ ストック・オプション行使による株式価値の希薄化について

当社グループは、取締役及び従業員に対するインセンティブを目的としたストック・オプション制度を採用しております。

今後につきましてもストック・オプション制度を活用していくことを検討しており、現在付与している新株予約権に加えて、今後付与される新株予約権の行使が行われた場合、保有株式の株式価値が希薄化する可能性があります。なお、本決算短信の発表日現在における新株予約権による潜在株式数は76,406株であり、発行済株式総数5,157,269株の1.5%に相当します。

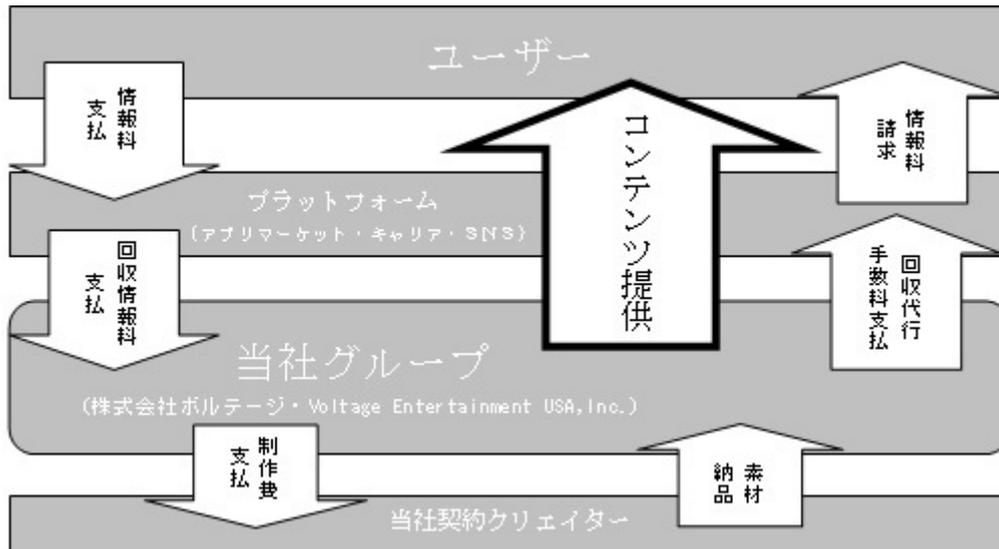
## 2. 企業集団の状況

当社グループは、株式会社ボルテージ（当社）及び子会社1社で構成されており、スマートフォン等のインターネットに接続可能なモバイル端末の利用者を対象とした、モバイルコンテンツを企画・制作・開発・運営し、プラットフォーム運営会社を介してユーザーに提供しております。

当社グループが運営するモバイルコンテンツは、主に基本プレイが無料でアイテムの利用量に応じた従量課金制であるF2P（Free-to-Playの略称）若しくはストーリー単位の個別課金制であるP2P（Pay-to-Play）となっております。

以下は、当社グループの事業系統を図示したものであります。

[事業系統図]



## 3. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「アート&ビジネス」という企業理念を掲げ、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとした感動コンテンツを提供することを経営方針としております。

当社グループでは、「アート」を、自らの力で独創性の高いコンテンツを企画し、生み出すこと、「ビジネス」を、コンテンツを多くの人に楽しんでもらうため、連続的にヒットを出せる仕組みを作ることと定義しております。

### (2) 目標とする経営指標

当社グループでは、売上高と売上高営業利益率を重要な経営指標としております。売上高の成長を継続させるとともに、売上高営業利益率を一定水準以上とすることで、企業価値の向上を実現してまいります。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

今後の戦略としましては、モバイルコンテンツの高付加価値化に集中するとともに、収益源の多様化を図ってまいります。

ターゲット層は、モバイルコンテンツの利用頻度及び可処分所得の高い18才～45才までの日本女性、日本男性及び英語圏女性としております。

モバイルコンテンツの高付加価値化は、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとした、ストーリー性のあるオリジナルコンテンツの企画力・制作力の向上及び有力なIPタイトルの獲得等により、図ってまいります。

収益源は、日本語版恋愛ドラマアプリ市場はもちろん、英語版恋愛ドラマアプリ市場及びサスペンスアプリ市場の拡大にも努め、多様化を図ってまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループが対処すべき主要な課題は、以下の項目と認識しております。

① コンテンツラインナップの充実

当社グループは、ターゲット層に向けた魅力的なコンテンツの提供を継続していくことが、事業の成長につながると考えております。このため、ターゲット層のニーズを汲み取った新規コンテンツの投入、既存コンテンツへのストーリー及び機能の追加・改善を行うことが重要な課題であります。「恋愛と戦いのドラマ」という当社グループのコンテンツテーマの下、ターゲット層を年齢や嗜好等でセグメント分けし、各層の興味や葛藤等に対応した魅力あるコンテンツを提供することで、コンテンツラインナップの充実を図ってまいります。

② ユーザー獲得の強化

当社グループは、提供するコンテンツのユーザー数の増加が、業績拡大のための重要な課題であると考えております。ユーザー獲得のため、テレビCM、モバイル広告等への積極的な広告露出、当社グループのコンテンツ間の誘導施策を継続的に行っております。今後も引き続き、当社グループのコンテンツの未利用ユーザーに向けた積極的な広告宣伝活動を展開するとともに、当社グループのコンテンツ間での誘導施策を強化し、ユーザー獲得の強化を図ってまいります。

③ 適正な配信プラットフォームの選択

当社グループは、コンテンツをターゲット層に届けるためのプラットフォームを適正に選択することが、事業の安定的な成長につながると考えております。昨今、モバイル業界では、端末、OS、プラットフォーム、課金システム等の分野で多数の事業者が世界規模の競争を行っており、著しい環境変化を引き起こしております。これに従い、ターゲット層のメディア利用状況も刻々と変化しています。当社グループは、この変化に的確に対応し、ビジネス効率を最大化すべく、適正な配信プラットフォームの選択に努めてまいります。

④ システム技術・インフラの強化

当社グループは、他社のサーバー等に関するサービスを機動的に利用しながら、システム開発及びサーバー構築・保守を行っております。当社グループのモバイルコンテンツは、スマートフォン等のモバイル端末を通じたインターネット上で提供していることから、システムの安定的な稼働、及びモバイル端末の技術革新への対応が重要な課題と考えております。これに対して、当社グループはサーバー等のシステムインフラについて、継続的な基盤の強化を進めるとともに、システム開発につきましても、開発プログラムのユニット化や標準化を進めることで生産性を向上させ、技術革新にも迅速に対応できる体制作りにも努めてまいります。

⑤ 優秀な人材の確保と組織体制の強化

当社グループは、今後の更なる成長のために、優秀な人材の確保、及び当社の成長フェーズに沿った組織体制の強化が不可欠であると認識しております。人材確保においては、新卒採用を中心に行っており、必要に応じて中途採用も実施し、当社グループの求める資質を兼ね備えつつ、当社グループの企業風土にあった人材の登用に努めてまいります。同時に、従業員の入社年数等の段階にあわせた研修プログラムを体系的に実施することによって、各人のスキルの向上を促します。また、組織体制につきましても、個々のチーム・従業員が最大限のパフォーマンスを出せるよう、計数指標管理に基づいた組織マネジメントを図ってまいります。

⑥ 英語版恋愛ドラマアプリ市場の拡大

当社グループは、英語版恋愛ドラマアプリ市場の拡大により収益源の多様化を図っております。商品においては、日本とは異なる文化・ユーザー嗜好等に合致した魅力あるコンテンツの提供を行うことに努めてまいります。集客においては、英語圏のユーザー数増加に有効な広告媒体の調査及び出稿を強化してまいります。組織体制においては、英語を母国語とする本社従業員の採用強化、及び海外子会社での優秀な人材の確保に努めてまいります。

4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、今後につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、国際会計基準の適用について検討を進めていく方針であります。

5. 連結財務諸表  
 (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,201,178	1,820,557
売掛金	1,836,738	1,722,355
前払費用	41,394	68,877
繰延税金資産	39,610	69,141
その他	8,504	8,302
貸倒引当金	△4,105	△1,438
流動資産合計	4,123,321	3,687,796
固定資産		
有形固定資産		
建物	87,488	103,450
減価償却累計額	△52,579	△74,325
建物(純額)	34,908	29,125
工具、器具及び備品	491,927	719,945
減価償却累計額	△285,369	△405,875
工具、器具及び備品(純額)	206,557	314,069
有形固定資産合計	241,465	343,195
無形固定資産		
ソフトウェア	364,650	555,946
無形固定資産合計	364,650	555,946
投資その他の資産		
投資有価証券	12,136	17,258
出資金	100	-
差入保証金	-	42,040
敷金	215,439	262,942
繰延税金資産	74,806	90,106
投資その他の資産合計	302,483	412,347
固定資産合計	908,599	1,311,488
資産合計	5,031,921	4,999,285
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	155,799	194,332
未払金	20,935	5,979
未払費用	794,761	756,669
未払法人税等	307,559	108,617
未払消費税等	113,337	83,790
預り金	51,810	58,554
その他	1,591	1,606
流動負債合計	1,445,794	1,209,549
負債合計	1,445,794	1,209,549

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当連結会計年度 (平成27年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	908,660	922,314
資本剰余金	874,260	887,914
利益剰余金	1,762,594	1,897,942
自己株式	△196	△196
株主資本合計	3,545,319	3,707,975
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△794	2,629
為替換算調整勘定	18,224	61,053
その他の包括利益累計額合計	17,429	63,682
新株予約権	23,377	18,077
純資産合計	3,586,126	3,789,735
負債純資産合計	5,031,921	4,999,285

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	10,082,506	10,599,572
売上原価	3,382,920	3,902,399
売上総利益	6,699,585	6,697,173
販売費及び一般管理費	6,083,292	6,229,818
営業利益	616,292	467,355
営業外収益		
受取利息	709	749
受取配当金	69	163
為替差益	20,045	12,363
雑収入	9,012	4,857
営業外収益合計	29,836	18,134
営業外費用		
雑損失	32	50
営業外費用合計	32	50
経常利益	646,096	485,439
特別損失		
固定資産除却損	6,363	276
特別損失合計	6,363	276
税金等調整前当期純利益	639,733	485,162
法人税、住民税及び事業税	391,983	299,143
法人税等調整額	△43,940	△46,527
法人税等合計	348,042	252,615
少数株主損益調整前当期純利益	291,690	232,546
当期純利益	291,690	232,546

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	291,690	232,546
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△794	3,424
為替換算調整勘定	△1,647	42,828
その他の包括利益合計	△2,442	46,253
包括利益	289,247	278,799
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	289,247	278,799

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成25年7月1日 至平成26年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	887,762	853,362	1,566,550	△196	3,307,479
当期変動額					
新株の発行	20,898	20,898			41,796
剰余金の配当			△95,646		△95,646
当期純利益			291,690		291,690
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	20,898	20,898	196,043	-	237,839
当期末残高	908,660	874,260	1,762,594	△196	3,545,319

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	-	19,872	19,872	-	3,327,351
当期変動額					
新株の発行					41,796
剰余金の配当					△95,646
当期純利益					291,690
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△794	△1,647	△2,442	23,377	20,934
当期変動額合計	△794	△1,647	△2,442	23,377	258,774
当期末残高	△794	18,224	17,429	23,377	3,586,126

当連結会計年度(自平成26年7月1日 至平成27年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	908,660	874,260	1,762,594	△196	3,545,319
当期変動額					
新株の発行	13,654	13,654			27,308
剰余金の配当			△97,199		△97,199
当期純利益			232,546		232,546
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	13,654	13,654	135,347	-	162,656
当期末残高	922,314	887,914	1,897,942	△196	3,707,975

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△794	18,224	17,429	23,377	3,586,126
当期変動額					
新株の発行					27,308
剰余金の配当					△97,199
当期純利益					232,546
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,424	42,828	46,253	△5,300	40,953
当期変動額合計	3,424	42,828	46,253	△5,300	203,609
当期末残高	2,629	61,053	63,682	18,077	3,789,735

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	639,733	485,162
減価償却費及びその他の償却費	135,050	166,440
ソフトウェア償却費	147,001	204,479
固定資産除却損	6,363	276
株式報酬費用	44,397	15,540
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7,512	△2,667
受取利息及び受取配当金	△778	△912
為替差損益 (△は益)	△12,977	△10,967
売上債権の増減額 (△は増加)	△120,834	117,897
仕入債務の増減額 (△は減少)	65,642	37,552
未払消費税等の増減額 (△は減少)	101,044	△29,553
未払費用の増減額 (△は減少)	△3,234	△41,691
その他	22,047	△22,037
小計	1,015,943	919,519
利息及び配当金の受取額	778	912
法人税等の支払額	△122,241	△495,905
営業活動によるキャッシュ・フロー	894,480	424,526
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△141,265	△256,247
無形固定資産の取得による支出	△260,002	△409,131
差入保証金の差入による支出	-	△42,040
敷金の差入による支出	-	△56,195
敷金の回収による収入	562	-
投資有価証券の取得による支出	△13,371	-
出資金の回収による収入	-	100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△414,077	△763,514
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	20,776	6,468
配当金の支払額	△95,281	△96,601
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74,505	△90,132
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,329	48,499
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	417,227	△380,620
現金及び現金同等物の期首残高	1,783,950	2,201,178
現金及び現金同等物の期末残高	2,201,178	1,820,557

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 Voltage Entertainment USA, Inc.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

主として移動平均法による原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

主として定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物附属設備 4年

工具、器具及び備品 4～7年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（3～5年）による定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案して、回収不能見込額を計上しております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前連結会計年度（自平成25年7月1日 至平成26年6月30日）

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成26年7月1日 至平成27年6月30日）

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
1株当たり純資産額	701.00円	731.67円
1株当たり当期純利益金額	57.37円	45.31円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	56.51円	44.76円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	291,690	232,546
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	291,690	232,546
期中平均株式数(株)	5,084,011	5,132,622
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	77,372	62,849
(うち新株予約権)	(77,372)	(62,849)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。